神奈川県考古学会

考古かながわ

第17号

1999年9月30日

明日はあるのか

神奈川県考古学会総務
伊丹　徹

今元気のある人たちはどんな人なのかと切に思う。元気の出ない、元気の出にくい考古学会（特に役員）の周辺を漁ってみたい。

問題その一　小役人たちは青息吐息である。バブル崩壊後、公共投資は落ち込み発掘調査の件数・規模は減少・縮小の一途を辿るようになる。神奈川県でも県立埋蔵文化財センターが17年という短さで組織はなくなり、建物だけが財団法人かながわ考古学財団によって管理されるに至った。県教育委員会では文化財保護課が27年目にして統廃合され、生涯学習文化財課となった。自治体の中には博物館構想を撤回・中断したり、市史刊行を打切るところも出てきた。発掘調査件数の減少は、それで生計を維持していた人たちにも打撃を与えずにはおかなかった。

神奈川県考古学会は創立準備会から数えると早いものでもう10年を迎えようとしている。会員数は約500人と、都道府県規模の会としては多くの会員を抱えており、その約半数は県市町村教育委員会（他県の方も含む）・法人調査組織・発掘調査団などで埋蔵文化財行政や発掘調査に関わる人たちが占めている。つまり険しい状況にあるもの達である。役員に至ってはほとんどがこのようなもの達で占められているのである（他業種も結構苦しいでしょうが…）。

問題その二　考古学も他の分野と同じく細分化・専門化が著しく進み、縄文前期後半の土器の専門家や南関東弥生中期の集落研究専門家はいても、「考古学」の専門家はもはや誕生しないのではないかと言う由々しき状況にある。大勢で知恵を出し合いながらでないと何も分からない。

問題その三　10年続けば惰性で流れることもある。マンネリという問題である。各種行事のネタが尽きかけている。

問題その四　少子化という日本の将来を暗澹とさせる問題も影を落としている。若い人の絶対数が少ない。これに伴ってか大学も元気がない。また職員数・資料の蓄積・各種データの集積など、都道府県設立の埋蔵文化財センターの多くは大学を凌駕している現状にある。

対　策　悲観的・大げさに考古学会を取り巻く状況を見てきました。考古学職場はこのように問題山積みで、疲れている暇のないものも多々いるといった塩梅なのです。しかし半数以上の会員（直接考古学職場に携わってない方）が「考古学」に関しては元気なはずです。会員になっている方々は程度の差こそあれ専門家を自負されていることでしょう。謙遜されてもそれだけの気概をお持ちであるに違いない。そういった会員の元気が会に注入されることなしに打開策はないのです。どしどし要望をあげてください。ガンガン突き上げて下さい。一歩踏み込んで役員に名乗りを挙げて下さい。

自分のライフスタイルに合った生涯学習の一環として、上手に考古学会をこき使って下さい。

註：疲弊しているのは本人だけで、多くの役員は割と元気です。　――総務自虐エッセイ三連発の幕――

平成11年度 通常総会報告

神奈川県考古学会の平成11年度通常総会が、平成11年6月12日(土)午後1時から「かながわ県民センター」（ホール）で開催されました。当日は、会場が横浜駅至近ということもあり、多数の参加を期待しましたが、結果約80名の出席となりました。

寺田会長のあいさつの後、会長が議長に選出され、議事に入りました。小川幹事の司会で進行し、村田幹事から平成10年度事業報告が、織笠幹事から平成10年度収支決算報告（会計監査報告は金子監事）があり、昨年度を総括しました。続いて小川幹事から役員改選案および平成11年度事業計画案が、織笠幹事から平成11年収支予算案がそれぞれ提出されました。

以上、5つの案件については、全て了承されました。長時間にわたる御審議、どうもありがとうございました。以下に、議事進行に沿った要旨をまとめておきます。

議事1　平成10年度事業報告について

(1) 平成10年度総会を平成10年5月30日(土)、「かながわ労働プラザ」にて開催。110名の参加。議案審議終了後、好評の「'97かながわ考古トピックス」では5人の講師により時代別研究の最新情報がスライド等を交えてわかりやすく解説していただけました。

(2) 役員会は、平成10年5月～平成11年3月の間、かながわ県民センターを主会場に計7回開催しました。

(3) 第22回神奈川県遺跡調査・研究発表会は、鎌倉市教育委員会との共催で平成10年11月15日(日)に鎌倉芸術館にて開催されました。旧石器時代から近世までの11遺跡を発表（うち2遺跡は紙上発表）。特別講演では、作家の永井路子氏から「東勝寺跡によせて　～遺跡が呼び覚ます太平記の世界～」と題した貴重なお話がうかがえました。参加者約300名。

(4) 研究誌『考古論叢　神奈河』第7集の刊行は、B5版本文106頁の体裁、論文5編の掲載で700部を印刷。平成10年4月30日発行。

(5) 連絡誌『考古かながわ』第15・16号の刊行は、ともにB5版8頁600部を印刷。平成10年10月と平成11年3月に発行。

(6) 考古学講座は、平成11年3月28日(日)に川崎市高津市民館（ノクティ2）で約120名の参加を得て開催されました。テーマは、『縄文ムラの風景』。県内の縄文集落跡をはじめ、昨今注目を集めている縄文遺跡の問題点などを中心に建築学や生物学のアプローチも含めて講演と質疑応答が活発に行われました。

▲役員の改選（新役員紹介）

(7) 遺跡見学会は、2回実施されました。第1回は、平成10年12月6日(日)に箱根町教育委員会の伊藤潤氏の案内で国指定史跡・箱根石仏群と旧街道を見学。参加14名。第2回は、平成11年4月16日(金)～19日(月)にかけて初の国外見学、韓国(慶州・ソウル)の文化財めぐりを24名の参加で実施。

議事2　平成10年度収支決算報告について

4頁のとおりです。

議事3　役員の改選について

任期満了に伴い、平成11・12年度役員の選出については、30名の幹事と2名の監事が以下のとおり候補としてあがり、承認されました。

平成11・12年度役員候補者氏名

幹事	明石　新	加藤　信夫	曽根　博明
	天野　賢一	加藤　緑	田村　良照
	安藤　文一	川口徳治朗	田代　昭夫
	伊東　秀吉	後藤喜八郎	寺田　兼方
	伊丹　徹	近藤　英夫	土井　永好
	大塚　真弘	小池　聡	中村　若枝
	大坪　宣雄	小林　義典	降矢　順子
	岡本　孝之	白石　浩之	松尾　宣方
	小川　裕久	鈴木　重信	村澤　正弘
	織笠　昭	諏訪間　順	村田　文夫
監事	市川　規平	金子　皓彦	

議事4　平成11年度事業計画案について

(1) 通常総会を平成11年6月12日(土)にかながわ県民センターで実施。

(2) 役員会を年6回程度開催する予定。

(3) 第23回神奈川県遺跡調査・研究発表会を平成11年9月12日(日)に伊勢原市民文化会館で開催予定。平成10年度調査の主要10遺跡と東海大教授・関根孝夫氏の特別講演を予定。

(4) 研究誌『考古論叢　神奈河』第8・9集の刊行準備。初代会長・日野一郎、2代会長・岡本勇両氏の追悼号で平成12年9月同時刊行を予定。

(5) 連絡誌『考古かながわ』第17・18号の刊行を平成11年8月と平成12年3月に予定。

(6) 考古学講座を平成12年2～3月に開催予定。テーマは『古代寺院の新しい景観』(仮題)で横浜市内に会場設定する計画。

(7) 見学会を年2回予定。場所は未定。

議事5　平成11年度予算案について

4頁のとおりです。

総会閉会後、恒例となった「'98かながわ考古トピックス」を以下の講師で行いました。

1. 旧石器時代 …… 砂田佳弘氏
2. 縄文時代 …… 山本暉久氏
3. 弥生～古墳時代前期 …… 大島慎一氏
4. 古墳時代後期～古代 …… 大上周三氏
5. 中・近世 …… 小林康幸氏

▼'98かながわ考古トピックス(大島講師の発表)

神奈川県考古学会平成10年度収支決算報告

（収　入）　（単位：円）

節	予算額	決算額	比較増減△	説明
会費	1,359,000	765,000	△594,000	10年度会費 3,000×174名＝522,000 旧年度分 3,000× 47名＝141,000 11年度会費 3,000× 34名＝102,000
機関誌等売上	1,256,000	1,221,880	△34,120	・発表要旨売上 265,000 会員@ 500× 10部＝ 5,000 @ 700×104部＝ 72,800 @1,000× 6部＝ 6,000 @1,200× 8部＝ 9,600 一般@1,000×134部＝134,000 @1,300× 2部＝ 2,600 @1,500× 2部＝ 3,000 委託販売 @1,500×0.8× 40部＝ 32,000 ・考古論叢売上 542,180 会員@1,500× 73部＝109,500 @1,800× 13部＝ 23,400 一般@2,300× 5部＝ 11,500 @2,500× 89部＝222,500 委託販売 @2,300×0.8× 17部＝ 31,280 @2,500×0.8× 72部＝144,000 ・考古学講座要旨売上 414,700 会員@ 500× 4部＝ 2,000 @ 700× 67部＝ 46,900 @ 800× 35部＝ 28,000 一般@1,000×205部＝205,000 委託販売 @1,000×0.8×166部＝132,800
雑収入	1,756	8,576	6,820	預金利子 1,310 寄附金 5,726 送料収入（切手） 1,540
繰越金	1,810,244	1,815,492	5,248	
合計	4,427,000	3,810,948	△616,052	

歳入歳出合計
平成10年度収入　3,810,948円
平成10年度支出　2,228,356円
執行残　1,582,592円
（次年度へ繰り越し）

※9年度総会資料記載ミス
繰越決算額　1,815,492円
繰越予算額　1,810,244円
△5,248円
（予備費へ繰り入れ）

（支　出）　（単位：円）

節	予算額	決算額	比較増減△	説明
会議費	130,000	56,867	△73,133	会議資料代 6,300 会議費 9,710 会場借上 40,857 講師謝礼 0
会誌発行費	1,310,000	945,340	△364,660	考古論叢神奈河7集 印刷代 778,050 考古かながわ15・16号 印刷代 109,200 原稿謝礼 5,000 発送・連絡代 53,090
普及啓発費	180,000	57,059	△122,941	講師謝礼 0 会場借上 0 会議費 1,510 資料印刷代 10,549 発送・連絡代 45,000 保険料 0
発表会費	850,000	534,960	△315,040	発表要旨印刷代 390,600 会場借上 0 講師謝礼 50,000 設営費 94,360
考古学講座費	530,000	316,524	△213,476	講師謝礼 10,000 会場借上 21,480 会議費 11,949 要旨印刷代 168,000 発送・連絡代 70,550 設営費 34,545
事務局費	790,000	317,606	△472,394	賃金 220,000 消耗品代 20,466 発送・連絡代 70,020 雑費 7,120
予備費	637,000	0	△637,000	
合計	4,427,000	2,228,356	△2,198,644	

会計監査報告

平成10年度の収支決算について、金銭出納簿、証拠書類を精査し、預金残金と照合した結果、誤りなく適正に処理されていることを確認しました。

平成11年5月15日

監事　市川規平　㊞
監事　金子皓彦　㊞

神奈川県考古学会平成11年度収支予算案

（収　入）　（単位：円）

節	予算額	前年度決算額	比較増減△	説明
会費	1,341,000	1,359,000	18,000	11年度会費 @3,000×447名＝1,341,000
機関誌等売上	1,140,000	1,256,000	116,000	発表要旨売上 会員@1,000×150部＝150,000 会員外@3,000×150部＝195,000 考古論叢 会員@1,500×100部＝150,000 会員外@2,500×150部＝375,000 考古学講座要旨 @ 700×100部＝ 70,000 @1,000×200部＝200,000
繰越金	1,582,592	1,815,492	232,900	
雑収入	1,408	1,756	348	
合計	4,065,000	4,432,248	367,248	

（支　出）　（単位：円）

節	予算額	前年度決算額	比較増減△	説明
会議費	100,000	130,000	30,000	会議資料代 10,000 会議費 30,000 会場借上 40,000 講師謝礼 20,000
会誌発行費	300,000	1,310,000	1,010,000	考古かながわ17・18号 印刷代 170,000 原稿謝礼 10,000 発送・連絡代 120,000
普及啓発費	180,000	180,000	0	講師謝礼 50,000 会場借上 20,000 会議費 20,000 資料印刷代 20,000 発送・連絡代 50,000 保険料 20,000
発表会費	850,000	850,000	0	発表要旨印刷代 600,000 会場借上 60,000 講師謝礼 40,000 設営費 150,000
考古学講座費	530,000	530,000	0	講師謝礼 60,000 会場借上 20,000 会議費 20,000 考古学講座要旨印刷代 180,000 考古学講座記録集 200,000 発送・連絡代 40,000 設営費 10,000
事務局費	790,000	790,000	0	賃金 300,000 消耗品代 100,000 通信代 120,000 会員名簿印刷代 200,000 雑費 70,000
追悼集刊行準備金	1,000,000	0	△1,000,000	考古論叢神奈河8 刊行費として 1,000,000
予備費	315,000	642,248	327,248	
合計	4,065,000	4,432,248	367,248	

韓国慶州史跡見学ツアーに参加して

会員　宮田　眞

４月16日朝成田空港団体待合室で、神奈川県考古学会韓国ツアー参加者（25名）の顔合わせと役員の挨拶が行われ出発の運びとなった。約２時間半の飛行を終え我々を乗せた大韓航空機は正午過ぎソウル金浦空港に着陸した。

到着早々その日の午後はバスでソウル市内の観光へと繰り出す。バスで待ち受けていたのはこれから４日間の旅の案内人女性のガイドの金さんであった。空港をあとにバスは快適に飛ばしていたが、やがてソウルの中心部へと近づくにつれ、渋滞の緩い流れに吸い込まれてしまった。ソウルの町中には街路を警備する軍服姿の若者が至るところに見られ、日本の首都風景とは一線を画していた。本日の観光は朝鮮王朝期の景福宮、その敷地内にある中央国立博物館見学でメインとなる。博物館では韓国各地から出土した考古資料に目がいき、須恵器を始めとする土器類の共通性から、改めて半島と列島の古代文化の近さに驚かされた。今回は博物館であまり時間がとれなかったのが残念である。その日の夜は石焼きビビンバとパジョン（韓国風お好み焼き）で韓国に来て初めての食事をとった。

翌17日、ソウル駅から特急列車セマウル号で慶州へと向かう。13時45分４時間強の鉄路を経てセマウル号は慶州駅に到着した。慶州駅の周囲はソウルとは全く異なり、都市と言うよりは田舎町といった佇まいで、ビルらしい高層建築は一棟も見当たらない、何やらホッとしたする気分になる。早速バスに乗り換え新羅の古都慶州の観光へと出発する。コースは統一新羅時代の離宮跡雁鴨池、国立慶州博物館、半月城跡の順でまわる。半月城跡では地面に点在する新羅時代の土器が目に止まり、職業病の拾いたい衝動に駆られながら遺跡を後にした。

18日は終日慶州観光を楽しむ。世界遺産に指定されている石窟庵を始め、仏国寺、天馬塚に代表される古墳公園、拝里三尊石仏、王族達の遊び場鮑石亭など、新羅時代に造営創建された盛り沢山な文化財巡りが日程に組まれた。我々が訪れた史跡や寺院には、地元韓国各地からの観光客や参拝客で大変な賑わいを見せていた。しかし、この日の最大の焦点となったのは、同行のＴ氏の発案で予定には全く無かった、地元東国大学を尋ねたことである。大学では考古学の金先生ご夫妻が我々一行を迎えて下さった。大学ではまず考古博物館を見学し、先生自らに日本語で展示物の解説をして頂いた。さらに我々にとっての幸運は、東国大学が慶州大学と現在合同で発掘調査をしている、統一新羅時代の生の遺跡に案内して下さった事である。遺跡では当時の町並みが広大な範囲で検出されており、井戸や下水等人々の生業の痕跡が累々と見つかっていた。また鋳物師の工房跡など、大変珍しい貴重な発見も見せて頂くことができた。今回の経験は至上の機会を得たと言えよう。紙上を借りて金先生ご夫妻、現場見学の際お世話して下さった学生さん達に、感謝の意を表します。

４月19日、再訪の思いを残し釜山より空路帰途につく。

新羅王京跡発掘調査現場見学
（左から２人目が金先生）

長柄桜山第１・第２古墳発見の経緯について

会員　　東家　洋之助

先ず、県の教育庁が７月21日に発表した古墳の概要について。

名　　称	長柄桜山第１号墳	長柄桜山第２号墳
種　　類	前方後円墳	前方後円墳
全　　長	約90ｍ	約80ｍ
所 在 地	葉山町長柄・逗子市桜山７丁目	葉山町下小路・逗子市桜山８丁目
調査状況他	発見時に数十個の土器片を表採。その後測量調査。	発見時に土器片数個。試掘２本、葺石と土器片多数。
評　　価	規模形態年代の類似した古墳が接近して２基在ること。葺石と埴輪を伴う古墳で県内有数のものである。	
対　　応	逗子市・葉山町と協議しながら、国指定史跡申請に必要な調査を実施し保護活用していきたい。	

第１号墳を発見できた、となるまでに長すぎると考えられる年月があった。平成４年春、考古学を習いはじめた頃、１号墳脇の遊歩道で小さな土器片を拾うことから始まった。

その頃は縄文人が狩猟キャンプで土器を使いこわれたのを捨てていったと考えていた。その後も何度か土器片を拾った。平成６年の秋に休息しながら眺めた後円部に当たる丘を人工的なものと考えた。横須賀市人文博物館の講座『三浦半島の考古学』『遺跡分布調査』で大塚・稲村両先生に教えて戴いた知識が役立った。

長柄桜山古墳案内図

初め円墳と思ったが周囲を調べてすぐ大きな前方後円墳と判った。その後は教わった知識がブレーキとなり『古墳が少ない相模湾寄りに大型前方後円墳、しかも前方と後円の高低差が大きい古い古墳が在って良いのか』と思うようになり、もう一つの証となる大型土器片の発見を夢見ながら、工事が入る処でもないので博物館の年次遺跡分布調査の折に報告すれば良い、と考え長い年月独りで楽しんだり、苦しんだりした。今年がその分布調査の時となったので３月１日、もう一度現場を見て自分の主張要点を纏めたいと現場に行ったところＰＨＳアンテナ工事で後円部墳頂が開伐され、落ち葉も清掃された状態に驚いた。そのおかげで埴輪突帯の脱落片を含む多数の土器片を発見できた。

古墳と自信をもって言える切っ掛けとなった円筒埴輪の突帯部の脱落破片

３月４日に大塚真弘先生に報告し逗子市教委の佐藤仁彦氏に処理してもらうよう助言を得た。会員の田中洋子さんと二人で彼に報告した。その後、県からの連絡で表採土器片の写真撮り、送付などを葉山町を通じておこなった。３月17日、第１号古墳は文化財保護課の池田治氏によって正式に古墳として認定された。第２号墳は４月17日に桝渕規彰氏から東国歴史考古学研究所所員からの指摘によって発見されたと聞いた。

古墳の知識を下さった稲村先生、事後の処理を適切に助言して下さった大塚先生、地元に情報を下さった桝渕先生に感謝申し上げます。

新刊紹介

『かながわの遺跡めぐり』

神奈川県考古学会　編

「神奈川の遺跡をわかりやすく紹介した本を出したい！」。これが本会を発足した当初からの私たちの夢でありました。

本会には御陰様で500名前後の会員が加入しておられます。おそらくこの会員数は県単位の考古学会としては、長野県に次ぐ数と思われます。それはまた、県下に考古学ファンが多いという証でもあると言えましょう。そうした仲間にむけ、本冊子は気軽に「やあ、ようこそ」の感覚で身近にある「かながわの遺跡」を探訪する際の仲間に入れて欲しくて企画したものであります。

掲載した遺跡は、時期や所在地を視野に入れながら23遺跡に厳選しました。従って、旧石器時代の月見野・上野遺跡から、江戸時代の宮ヶ瀬遺跡までを含んでいます。また執筆者には当該遺跡の調査・研究に直接関係した人にお願いしました。平易な記述の中にも高い学術的な視点があり、特に重要な遺構や遺物が発掘された時の溢れる感動が臨場感を盛り込みながら随所に記述されています。調査に関わった関係者のみが知る「秘話」とも言えましょう。

冊子の編集は神奈川県考古学会、出版は多摩川新聞社ですが、この度の刊行にあたりましては多摩川新聞社から多大な御協力を頂きました。四六判、本文261頁、頒価2,000円＋税で、一般の書店でも購入できます。　（村田文夫）

『風水ウォーキング　古代遺跡謎解きの旅』

松本　司　著

当会事務局に１冊の本が届けられました。タイトルから察するに、風水ブームに便乗したその手（眉に唾の…）の書籍ではないかと思えました。しかし、いくつかの書評を添えた丁寧な送り状などから、著者は町田市教育委員会社会教育課係長で、自ら研究する風水学・陰陽説を生かしたまちおこしにも取り組んでいる方だということが判りました。

本書は、風水の基本解説から始まります。そして我々の研究フィールドでもある境川上流域における古代都市の選地・配置を風水思想から説き明かすことを出発点にして、三内丸山・大湯・加茂岩倉・神庭荒神谷・藤原京・上野国分寺等、次々とその検証作業が進められていきます。いわゆる「縄文ランドスケープ」とは一線を画しながらも興味つきない事実が紙面狭しと易しい口調で語られています。明治大学・小林三郎教授や群馬大学・梅澤重昭教授、さらに法政大学・田中優子教授などからは少なからず関心と声援が寄せられている、とのこと。

「風土歴史学」と著者自身が銘打ったこの古代史研究の新しい切り口が、周囲の自然環境と深い関わりをもって成立した遺跡の情報をフィードバックさせてくれるかも知れません。また著者は、「心身の健康のための読み物として楽しんで下さい」とも伝えてきています。㈱小学館発行、四六判、本文269頁、定価1,680円（税込）。　（土井永好）

見学会の御案内

今夏は例年になく暑い日が多かったように思いますが、会員の皆様お元気でしょうか。

さて、秋の行楽シーズンをひかえ、県考古学会では恒例の史跡見学会を本年度は次のように計画していますので、奮ってご参加ください。

まず第一回目は県内の史跡を対象にしたいという考えで、今春、葉山町～逗子市で発見された県下最大規模の前方後円墳である「長柄桜山１・２号墳」に決まりました。11月中旬を予定しています。

第二回目は、昨年度の韓国ツアーが好評であったことからその余勢をかって、来年２月頃に「台湾（国立故宮博物院）」まで足を延ばしてみようと考えています。

展示会の御案内

神奈川県立歴史博物館　（☎045－201－0926）

▶*コレクション展示「中世の陶器── つぼ・かめ・はち」*　～10月11日

府中市郷土の森博物館　（☎042－368－7921）

▶*「和同開珎」*　９月19日～10月24日

北区飛鳥山博物館　（☎03－3916－1133）

▶*「貝塚と縄文人のくらし」*９月23日～11月７日

富士市立博物館　（☎0545－21－3380）

▶*「富士・愛鷹・箱根山麓の縄文時代」*　９月７日～10月31日

浜松市博物館　（☎053－456－2208）

▶*開館20周年記念特別展「祈りの造形── 古代人の呪術と信仰」*　９月25日～10月31日

会員の異動（物故会員／敬称略）

８月末現在、次の方々のご逝去の連絡をいただきました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

小宮山桂吾（H10.９），斎藤啓子（H11.６）
田中壬子也（H11.１），森川孝三（H11.７）

平成11・12年度役員体制

総会で改選承認された結果、次のとおり役員会の各運営委員が決まりました。会の運営に関する御意見・御要望等がございましたら、遠慮なくお寄せください。　＊下線表示は責任者

寺田会長・伊東副会長

- 総　務　（小川・伊丹・村田）
- 会　誌　（川口・大塚・岡本・鈴木）
- 連絡誌　（土井・近藤・曽根・降矢・村澤）
- 講　座　（加藤(緑)・明石・大坪・白石・諏訪間）
- 見学会　（松尾・安藤・小池・田代・田村）
- 発表会　（加藤(信)・天野・小林・後藤）
- 会　計　（織笠・中村）
- 監　事　（市川・金子）

編集後記

当連絡誌も新しい担当５名で編集を始めました。どうぞよろしくお願いします。

単なるお知らせ記事ばかりに偏ることなく、会員の皆様にとって役に立ち、そして何よりも読んで面白いものにしていきたいと一同張り切っています。隠れたエピソードや貴重な資料などを事務局までどしどし紹介してください。お便り、お待ちしています。（D）

考古かながわ　第17号

発　行　神奈川県考古学会
発行日　1999（平成11）年９月30日
編集者　近藤英夫・曽根博明・土井永好
　　降矢順子・村澤正弘
事務局　東海大学文学部考古学研究室内
　　〒259-1207　平塚市北金目1117
　　郵便振替　00240－9－71208
　　神奈川県考古学会
印刷所　コジマ印刷